

60年の伝統紡ぎ、革新へ

中野島中学校 記念式典をライブ中継

今年度、創立60周年を迎えた川崎市立中野島中学校（長谷川雅之校長・生徒711人）は2月22日、同校で記念式典を開催した。感染症防止を踏まえて式典は関係者のみで行われ、会場の様子は放送委員会による映像のライブ中継で、教室の生徒たちへ画面越しに届けられた。

式典は生徒会が司会進行を担い、来賓として記念事業委員会の田島清隆委員長、人物風土記で紹介した約30分の動画「60年のあゆみ」では、開校時から今までの学校行事や生徒らの写真をスライドショー形式で紹介。生徒会が事前収録した座談会も盛り込まれた。

記念品贈呈では、PTAの田村賢太郎会長から記念誌の目録、本間会長からは航空写真が印刷されたクリアファイルとシンボルマーク入りの学年色のパンダナが、生徒を代表して生徒会メンバーに手渡された。



創立60周年記念
シンボルマーク

360°心を広げて
挨拶満点 笑顔満天

創立60周年
生徒会年間テーマ

人文字のシンボルマークは昨年10月26日撮影、学校提供



ぎ、新たなものを生み出してきたからこそ、中野島中は60周年にふさわしい成長をしてきたと胸を張って言える。伝統について考え、発信する場をいただいた。学校のさらなる発展を心から願っている」と締めくくった。

60周年の取り組みとして、生徒会は昨年度末、年間テーマについて協議。生徒総会を経て『360度心を広げて 挨拶満点 笑顔満天』に決定した。その後、年間テーマは1万7千人を超える。

◀あいさつする田島委員長。式典の様子は、各教室のモニター画面でライブ中継された。



教室で、画面越しに式典を見届ける生徒たち。動画「60年のあゆみ」では、在校生も登場し釘付けに。▶



記念動画でトークも
生徒会

式典のライブ中継は放送委員会が担当。コロナ対策で昨夏から校内のテレビ集会等で役割を担うように。式典で画面切替や音量調整に携わった委員長の渡辺ののさん（2年）は「皆しっかりやってくれた。今度は後輩に教えられるよう頑張りたい」と語った。

生徒会は、動画「60年のあゆみ」の制作に参加。歴史を振り返る企画に沿って、メンバーが写真紹介にナレーションを入れたり、座談会形式でトークを披露した。白敷会長、副会長の玉置紗也さん（3年）は「今年に残せるものができてよかった」と話した。



今年度の生徒会年間テーマは、心を閉ざすことなく、さまざまな制約を新しい生活様式として受け入れ、学習や行事、部活動に明るく前向きに取り組む「中中（なかちゅう）生」の姿そのものです。社会の変化に対応し、信頼される学校づくりをこれからも進めていきます。
長谷川雅之 校長

学校に感謝

今年度でPTA会長として3年目。田村会長は「コロナの中、各委員会や役員はさまざまな制約を乗り越えて活動している」と話す。広報委員会では先月、PTA広報の特別号＝写真＝を発行。学校行事への保護者の参加や観覧が制約される中、「少しでも学校や生徒の様子が伝わるように、写真やページ数を増やした」と田村会長。表紙には、記念行事の一つ、校庭での航空写真撮影の様子が掲載。体育祭の各種目や応援合戦、修学旅行、文化発表会、部活動を数多くの写真とともに紹介している。「子どもたちの頑張りを再認識した。先生方のサポートをはじめ学校の尽力のおかげ」と感謝を表した。



PTA会長
田村賢太郎さん

ライブ中継の裏方役 放送委員会

